

第 55 回 愛知県河川整備計画流域委員会 議事抄録

<鍋田川圏域(第2回)>

日時：平成 27 年 8 月 25 日（火） 10 時 50 分～12 時 00 分

場所：愛知県自治センター 5 階 研修室

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 議題

○河川整備計画の方向性について

4. 質疑

(委員意見)

P.35 の表現が一部「上流域」、「中流域」となっているので、「上流部」、「中流部」に修正してください。

(事務局回答)

修正します。

(委員意見)

P.38 に水質の記載がある。富栄養化項目として植物プランクトンが記載されているが、2MIB とジェオスミンは、何か説明がないと普通の人はずわからないと思う。

また、T-N、T-P が、目安となる値から 10 倍程度大きい値となっている。その理由は単独浄化槽等の家庭排水であろうと思われるので、P.40 の表現は、「繁茂に繋がっているものと推定される」と言わずに、「繁茂に繋がっている」と表現した方が良い。

(事務局回答)

2MIB やジェオスミンについては簡単な説明書きを加えるなど、修正すべき点は修正します。

(委員意見)

整備計画の規模は年超過確率 1/5 規模であり、この規模での河川改修は概成はしているため、今後は水門や排水機場の耐震対策を行っていくということか。

(事務局回答)

これまでに排水機場等の整備がなされており、近年の浸水被害等を確認しても主立った被害は出ておりませんので、年超過確率 1/5 の規模で一定の治水安全度は有していると判断しています。排水機場等については、平常時からゼロメートル地帯での排水を担っている施設であることから、排水機場等の耐震対策がまず必要と考え、これを整備計画に位置づけて実施していきたいと考えています。

(委員意見)

P.60 の環境の方向性について、内容が重要である。よい環境のことを住民の方に聞くと、桜やパンジーやコスモスなど見た目が良い外来種が選ばれがちとなる。しかし、今社会に求められているのは、生物多様性を高めていくことである。具体的な表現がないと外来種が植えられ

ていくことも踏まえ、生物多様性への配慮の表現があると良い。

現地には水路の周りに自由な、洪水があふれても大きな問題とならない県有地があるとのことである。そこには今は擁壁があるが、それを少し外せば自然の流れができ、いわゆる川として成り立ってくる。そのような状況を作っていけたらもっといい川になると思う。

“親水空間”はどのようなものが曖昧で、階段ばかりでなく、生物多様性と合わせた親水性を考えるとというのが、自然と共生する社会へのアプローチだと思う。

その県有地には道路計画があるとのことだが、その計画と一緒に空間をどう作っていくのか。そこを歩く人たちにとっては、木陰になると歩きやすいなど、その空間のポテンシャルを上げていく方向性を考え、今の姿を活かすのか、それとも隠すのかなど、具体的な方向性がわかる文章にしてほしい。

(事務局回答)

ご意見を踏まえ、できるだけ反映できるように考えていきます。

(委員意見)

欠席委員の意見に輪中としての歴史とあった。水と闘ってきた先祖たちの歴史というものは、環境の中にぜひ含めていただきたい。環境というのはもちろん自然環境もあるが、歴史的な環境もある。

伊勢湾台風の被害から、鍋田川が閉じられて、水質なども変わった。この災害の記憶は、歴史の中に加えなければならない。鍋田川を閉じたときの経緯については、現地に碑文などはあるのか。鍋田川のどこが破堤し、改修され、木曾川から分離したなど、伊勢湾台風を全く経験していない人も多くなってきている状況で、記憶を残していく措置をしてほしい。

さらに、アンケート調査をされる際に、歴史的な背景を書くと、住民の方にも過去の記憶がいかに大切かということが意識していただけたらと思う。

(事務局回答)

現地に鍋田川が締め切られたという碑は残っておりません。文献としては、伊勢湾台風災害復興誌や鍋田川埋立て工事誌などが残されております。整備計画の中にも、これまでの治水の歴史や輪中等についても書くべきと思っておりますので、次回の委員会で本文の原案をお示しします。

また、第1回住民アンケートでは鍋田川の歴史と治水として鍋田川の成り立ちなどを示しております。

(委員意見)

伊勢湾台風や、輪中の時代など、いろいろなもの名残が鍋田川の流域にある。この名残を住民がどう評価しているのか、もう少し詳細に聞いてはどうか。また、水門や旧堤防のパラペットなどを今後どうしていくのか、機能を失った名残的なものを誰がどう管理したり処分したりしていくのかということも、住民から提案できるような方法を考えてほしい。住民がこれら名残の景観について、どのように評価しているのかだけでも抽出して欲しい。鍋田川は人工的に作られた特殊な川なので、そういった工夫があると良い。

(事務局回答)

ご意見を踏まえまして検討したいと思います。

(委員意見)

「流水の清潔を保持するため、流況等の把握に努めます」の表現の意味がよくわからない。ポンプで排水しているのだから、どのぐらいの水が入ってどのぐらいの水が出ているかというのはもう把握されているはず。

(事務局回答)

表現を検討します。

(委員意見)

第一回目のアンケート結果では、耐震とか津波の心配とか治水の心配が書いてあり、それに対し P.57 には、耐震対策をすると書いてある。それに対して、2 回目のアンケートの説明には、「耐震対策が必要です」、「耐震性能の確認が必要です」とある。住民側からすると、必要だとは思っているが、やってくれるのかどうか不明瞭である。対策については県が行っていくということを分かりやすく表現できないか。

(事務局回答)

実施することが分かりやすい表現に修正します。

(委員意見)

アンケートの構成として、「地震、津波への対策は？」という言葉では、課題と現状のところで対策が先走っており、流れが悪い。「地震、津波への備えは？」と修正して、現状では対策が必要だとしておき、見開きの計画骨子で実施しますという流れが良い。

(委員意見)

河川整備計画の目標の方向性について、外来種の問題が気になる。こういう河川ではすぐに外来種の植物などが入ってくると思います。それから、川と人との触れ合いの場の保全について、どのような親水空間にしていくのかは非常に大事だと思う。三重県でも、河川で親水空間とか親水公園は多いが、利用状況が今一つなところもある。どういうふうにご利用してもらいたいのか、しっかりと考えることが大切。これら外来種への対応と親水空間について、方向性の中でもう少し具体的にしたいと思う。

河川環境の現状に、「ケリ」と「コチドリ」が挙げられている。環境省では情報不足、愛知県とか三重県は該当なしになっているが、なぜ重要種という取り扱いになったのか、お伺いしたい。

(事務局回答)

レッドデータブックに記載されているものを重要種としていますが、その根拠については改めて確認して、次回にご報告させていただきます。

(委員意見)

ケリは日本でも局所的に見られる鳥で、東海地方や近畿地方、東北地方に分布しており、その意味では重要な種とも言えることから、住民にアピールするのは良い。レッドデータブック上の位置づけなどは、再度確認し調べて欲しい。

(委員意見)

P.41の現状、2つめの文章の表現で、「過去の用排水路の形態を残しており、河道内に植生は見られず、特定外来生物が多く生息している」とあるが、「植生が見られず」と「外来生物が多く生息している」とは、つながりがないと思う。一行にいろんなものが混在しているので、表記方法を検討してほしい。

(事務局回答)

わかりにくい文章ですので、表現等修正いたします。

5. 閉会

○欠席委員からの意見

(委員意見)

ポンプなどの機械は止まることもあるので、浸水に対する避難、特に維持管理の容易な命山などの施設を考えていくことが重要。

(委員意見)

アンケート結果において、排水機場や水門の老朽化に不安を感じるという答えが多いことにも着目すべき。

(委員意見)

方向性において、鍋田川の形成された歴史だけでなく、輪中としての歴史も踏まえていくべき。

(委員意見)

古くからの集落は自然堤防上にあり浸水被害があまりないが、近年の市街化の進行により形成された市街地は旧集落に比べ洪水の危険度が高いのではないかと。

(委員意見)

水質に関して、養殖池の排水が富栄養化にかかわっているのではないかと。

[了]